

Manna マナ (026号) 2008年9月28日



【今週の暗唱聖句】

わがたましいよ。主をほめたたえよ。主のよくしてくださったことを
何一つ忘れるな。詩篇 103 篇 2 節

●自分に話しかける詩篇

人間は神によって「精神」を与えられているため、本能に制限されている動物とは異なり、自分を客観視し、自分に向かって命令したり、自分を励ましたりすることができるばかりか、本能に従わないこともできる。このような特別な能力を持って造られている私たちのために、神は「詩篇」を聖書に加えてくださり、どのように自分に語りかけて行くか、様々なサンプルを提供してくださっている。この詩篇でも「自分」の理性が自分の「たましい」に呼びかけ、二つのことを命令している。

●主をほめたたえよという命令

およそ人が自分に対してできる最高のアドバイスはこれである。神をほめたたえることは、順境・逆境に関わらず、人生で経験する全てのことを正しく理解するための土台となる。どのような厳しい状況が目前で展開していたとしても

その背後に聖・善・義・愛・全能の神がおられることに思いを向けることができるからである。

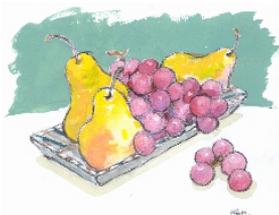
●自分史の活用の勧め

クリスチャンは信仰決心をした時から神と共に歩む歴史を刻み始める。神と本当の交わりを持って生きている者たちは、順境・逆境、様々な状況の中で神がくださった恵みを数えることができるようになる。御言葉の励まし、状況の整え、罪からの守り、自分を通しての人の救い、信仰の友の恵み等々、恵みは増える一方である。しかし話しはそこで終わらない。神は私たちに下さった恵みに応じて取組むべき難しい課題を与えて下さるのだ。人の救いや成長に関わることであったり、社会正義のための戦いかもしれない。当然ストレスが掛かり、苦しくなったりするのであるが、その時こそ TAKE STOCK, 「数えて見よ、主の恵み」なのである。■

【今週の英語】

The grace of God will exalt a person
without inflating him and will humble
a person without debasing him.

神の恵みというもの、人を高慢にさせることなく賞揚（高め）し、人を卑しめることなく謙遜にさせるのだ。



【先週のMESSAGEより】

祈りは顔を変える／ハンナの祈りから学ぶ サムエル記1章

●ハンナは不妊というどうにもならない物理的な困難に加え、何年にもわたり人格的な攻撃を加えて来るペニンナから辛い思いをさせられて来ていた。彼女の歴史の分水嶺になったのは「祈り」である。彼女は長い間、これらの問題を抱え、我慢し、人間的な解決を様々講じてきたであろう。しかし万策つきた時、彼女は始めて主の御前に「心を注ぎ出して」祈ったのである。

●彼女がそれまで祈らなかったと言っているのではない。ただ彼女は



「神以外に自分の問題を解決できる方はいない」という思いでは、まだ祈っていなかったのである。

我々も本来一番最初にすべきことであるにも関わらず多くの場合、神に祈り求めることを最後の手段と考えていることが多いのではないだろうか。神はしかしながら、我々に祈りを学ばせたいために、敢えて祈らざるを得ない状況に私たちを追い込んでくださるのだ。

●祈り切ったハンナの顔はもはや以前のようなではなかった。神が自分の状況を知っておられるという安心と訴えるべきは訴えた、あとは神が責任を負ってくださる、という重荷の転嫁がなされたからである。子供がない状況はその時点では何も変わっていなかったが、彼女は喜びを先取りすることができたのである。

●神は無意味に私たちが困難を通るようにはなさない。むしろその困難を通してまず私たちをご自身に向かわせ、祈らせ、神の御業が最もふさわしい方法で最もタイミング良く行われるよう調整なさるのである。

●ハンナを通し、イスラエルの偉大な改革者サムエルが生まれた。

【旧約聖書を語呂で覚えよう（3/4）】

先週は「初めに神が天地創造／木の実を食べてすぐ墮落／ノアの箱舟大洪水／言葉分ならずバベルの塔／人は散り散り国々できる／神に選ばれアブラハム、星を見上げて信仰義認、愛するひとり子イサクをささげた／ヤコブは別名イスラエル／十二部族は彼から生まれ／エジプト下って合流したが／めぐりめぐって奴隷となって全部で四三〇年。」となります。是非なんども言って覚えてしまってください。

初代の王は
サウル王

サム列王

士師ルツ

ヨシユア

の動物 ♪

犠牲

だから必要

受けたが守れない

十戒

紅海渡り、シナイ山

過ぎ越して

十の災い

八十、これからだ

モーセ